



# 2026年2月期決算説明会 プレゼンテーション資料 ～プラットフォームに向かって～

---



株式会社ミックウェア (Nasdaq: MWC)

2026年7月

# 将来の見通しに関する記述

本プレゼンテーションには、将来の出来事に関する当社の現在の予想や見解を反映した将来予測に関する記述が含まれており、これらはすべてリスクや不確実性の影響を受けます。これらの記述は、厳密には過去または現在の事実とは関係がないという点から識別できます。これらの記述の多く（すべてではありません）は、「概ね」、「～であると考え」、「希望する」、「期待する」、「予想する」、「見込む」、「予測する」、「意図する」、「計画する」、「～するだろう」、「～するはずだ」、「～すべきだ」、「～できる」、「～かもしれない」といった言葉や、その他の類似した表現が使用されていることから識別できます。これらの記述は、当社の成長戦略、財務実績、および将来の開発計画に関するものである可能性が高いです。投資家の皆様は、かかる記述を慎重に検討するとともに、多くの要因により実際の結果が当社の将来見通しに関する記述と異なる可能性があることをご理解いただく必要があります。これらの要因には、不正確な仮定や、既知および未知のものを含む多種多様なその他のリスクや不確実性が含まれる可能性があります。いかなる将来見通しに関する記述も保証されるものではなく、将来の実際の結果は大幅に異なる可能性があります。実際の結果が将来の見通しに関する記述で論じられた内容と異なる原因となり得る要因には、以下が含まれますが、これらに限定されません：売上高、利益、支出、現金残高、およびその他の財務項目を含む、当社の将来の財務および営業実績に関する仮定；目標を達成する能力を含め、当社の成長および拡大計画を実行する能力；現在および将来の経済・政治情勢；業界内での競争力；当社の資本要件および必要に応じて追加資金を調達する能力；顧客を惹きつけ、ブランド認知度をさらに高める当社の能力；事業展開を可能にするために、有能な管理職および主要な従業員を採用・維持する当社の能力；業界の動向；ならびに、本年次報告書に記載され、将来の見通しに関する記述の根拠となる、またはそれらに関連するその他の前提条件。

当社の事業（財務状況および経営成績を含む）に影響を及ぼす可能性のある特定の重要なリスク、不確実性および前提条件については、米国証券取引委員会（以下「SEC」）に提出したフォーム20-Fによる年次報告書（以下「年次報告書」）の「リスク要因」の項に記載しています。当社の将来予測に関する記述は、当該記述が行われた時点で経営陣が入手可能な情報に基づく経営陣の判断および仮定に基づいています。実際の結果や成果は、当社の将来予測に関する記述において明示、暗示、または予測された内容と著しく異なる可能性があり、またその可能性が高いことにご留意ください。したがって、将来予測に関する記述を鵜呑みにすることには注意が必要です。連邦証券法で義務付けられている場合を除き、当社は、新しい情報、将来の出来事、前提条件の変更、その他の理由にかかわらず、本プレゼンテーションの配布後に将来予測に関する記述を公に更新する意図も義務も一切負いません。

本プレゼンテーションにおける将来の見通しに関する記述は、本プレゼンテーションにおいて当該記述がなされた時点における事象または情報のみに係るものです。法律で義務付けられている場合を除き、当社は、当該記述がなされた日以降、新たな情報、将来の事象、その他の理由の如何を問わず、将来の見通しに関する記述を公に更新または修正する義務、あるいは予期せぬ事象の発生を反映する義務を負いません。

本プレゼンテーションは、年次報告書および登録届出書の添付書類として提出された文書と併せて、当社の将来の実際の業績が現在の予想と著しく異なる可能性があることをご理解の上、慎重にお読みください。



**鳴島 健二**

代表取締役会長 兼 社長 CEO



# ミックウェアの概要：2026年2月期の財務ハイライト

140.3百万米ドル

売上高

前年同期比+0.1%

51.6百万米ドル

売上総利益

前年同期比+5.1%

36.8%

売上総利益率

前年同期比+1.8ポイント

15.1百万米ドル

営業利益

前年同期比+5.6%

15.6百万米ドル

調整後営業利益<sup>1</sup>

前年同期比+2.0%

10.3百万米ドル

当期純利益<sup>2</sup>

前年同期比+17.0%

ソフトウェア関連サービス  
7.3百万米ドル

ライセンス  
20.7百万米ドル

サービス  
ライン別  
売上高

ソフトウェア  
開発サービス  
112.3百万米ドル

Location-Based  
Services  
LBS事業  
45.6百万米ドル

セグメント別  
売上高

Software Defined  
Vehicles  
“SDV” 事業  
102.7百万米ドル

すべての数値は米ドル建ての業績に基づく成長率を示しています。

USD/JPYレート  
2025年2月期 \$1=¥150.64  
2026年2月期 \$1=¥156.05

注：2026年2月期とは、2026年2月28日に終了する年度を指します。すべての米ドル換算額は、各貸借対照表日時点の為替レート、またはそれが利用できない場合は、米国連邦準備制度理事会（FRB）が報告した当該日以前の直近の為替レートに基づいて算出されています。

(1) 当社は、事業を評価するにあたり、営業および財務実績を検証・評価するための補足的な指標として、調整後営業利益を含む特定の非GAAP指標を使用しています。調整後営業利益は、営業利益に、当社の新規株式公開（IPO）および企業変革イニシアチブに関連して発生した、上場関連の一時費用およびその他の変革費用を加算して算出される非GAAP財務指標です。経営陣は、調整後営業利益を自社の営業実績のベンチマークとして、また競合他社との比較基準として活用しています。調整後営業利益は、米国で一般に認められた会計原則（「米国GAAP」）に基づく財務実績の指標ではなく、単独、あるいはGAAPに基づき報告された当社の業績分析の代替として考慮されるべきではありません。さらに、この指標は、当社の全体的な業績を示すものではなく、過去または将来の財務実績を示す指標でもありません。当社が調整後営業利益を算出する方法は、他社が提示する同様の名称の指標と比較可能ではない場合があります。当社が最も直接的に比較可能であると考える米国GAAPに基づく営業利益との調整表については、付録をご参照ください。

(2) 当社の普通株主に帰属する当期純利益を指します。



## 1 持続的な利益率の拡大が利益成長を牽引

売上総利益率は前年同期比+1.8ポイント改善し36.8%を実現  
一過性の要因ではなく、過去最高水準の利益率と持続的な収益性を達成

## 2 戦略的な研究開発投資の加速と着実な利益成長の実現

研究開発費が前年同期比+40.0%と大幅に増加する中、営業利益および調整後営業利益はいずれも拡大  
将来のイノベーションへの投資を継続しつつ、着実な利益成長を実現

## 3 主要な Original Equipment Manufacturers (“OEM”)との長期的な関係を活かしたSDV事業の成長

世界有数のOEMとの強固かつ長期的な関係、特に開発サイクルの長い顧客との関係による持続的な競争優位性の確立、ならびに進化するSDV領域における継続案件・追加開発案件の獲得機会の創出

# ミックウェアの概要：今後の方向性

## デベロッパー



日本・神戸にて創業し、カーオーディオおよびカーナビゲーションシステムの開発に特化した小規模チームとしてスタート

2003年

## サプライヤー



日本に拠点を置くインフォテインメント（IVI）分野の代表的なTier1ソフトウェアサプライヤーとしての地位を確立

~2024年

## プラットフォーム



世界中に約600名を擁するグローバルチームへと拡大<sup>1</sup>

2026年



進化し続ける  
モビリティソリューションの  
ための強固な基盤の構築



グローバル展開の加速



新たな事業機会の獲得



従来の枠組みを超えた事業  
拡大、長期的価値を創出

技術力と実行力により長期的価値を創出

注：（1）従業員数は2026年6月11日時点の概数



©micware 2026

特定の結果が得られるという保証はありません。投資には投機的要素や流動性の低さがあり、損失を被るリスクがあります。過去の情報は将来の結果を示すものではありません。

# ミックウェアの概要：インテリジェント3Dプラットフォーム「DynaPlanet」

Dynamic Street Map  
and Market Place  
(DSMM)



## DynaPlanet

**DynaPlanet**

Dynamic Street Map and Market Place (DSMM)は、現在推進中の戦略的進化の一環としてDynaPlanetに名称変更<sup>1</sup>



DynaPlanetはAI時代に向けて設計されたインテリジェントな3D空間プラットフォームである。位置情報に基づくマルチメディアコンテンツ（テキスト、画像、音声、3D）がAIによって単一のエコシステムに統合され、そこでは新たな価値や体験が絶えず循環

### 提供ソリューションのポートフォリオ



世界遺産・姫路城  
- 3Dプラットフォームを活用した動画



PreSpot<sup>2</sup>



予約前に、選択したエリアからの  
眺めをプレビューできる  
3Dスタジアム予約アプリ

*Prepare your spot  
before you are there*

注：

(1) 2026年7月1日より有効

(2) 2026年7月1日リリース



©micware 2026

特定の結果が得られるという保証はありません。投資には投機的要素や流動性の低さがあり、損失を被るリスクがあります。過去の情報は将来の結果を示すものではありません。

# ミックウェアの概要：事業セグメント



# 今後の展望：成長に向けた重点投資領域

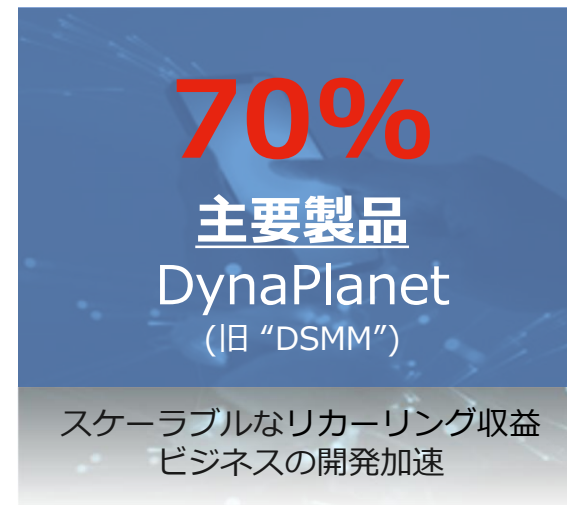
## 事業セグメント別の戦略的アロケーション

### Software Defined Vehicles SDV事業



IPO純調達資金<sup>1</sup>  
+  
営業キャッシュ・フロー

### Location-Based Services LBS事業



### IPO調達資金の使途

- **約44%**： DynaPlanetプロジェクトおよびmicAuto-PFの商用化・規模/領域拡大、技術・サービス・市場強化、サービス拡充および基盤技術高度化への戦略投資
- **約36%**： 運転資金および営業費用を含む一般的な企業活動に充当
- **約12%**： 上記のDynaPlanetおよびmicAuto-PF関連施策以外で、当社の競争力強化に資する補完的な技術・サービス・市場アクセスを有するSDVおよびLBS領域への戦略的投資に充当
- **約8%**： マーケティングおよび広告活動に充当

注：（1）IPOに関連して、2026年5月27日に引受証券会社がオーバーアロットメント・オプションを全額行使した分を含む。



## 成長戦略

### 1. IVI向けTier1ソフトウェアサプライヤーからSDV向けTier1ソフトウェアサプライヤーへ進化



#### OEMおよびTier1サプライヤーとの 長期的パートナーシップの 強化・深化

- 既存OEMの開発上流工程への関与拡大
- 日本および将来的には海外における新規OEM案件を獲得
- micAuto-PFプラットフォームの開発加速と機能強化



#### 地域および業界の拡大を通じ て、人材の採用・定着を加速

- 日本の主要都市におけるプレゼンスの拡大および海外人材拠点の開拓
- 電子機器、ロボティクス、航空宇宙など隣接分野におけるミッドキャリア人材の採用に注力



#### ADAS（先進運転支援システム） ／自動運転（AD）の統合および ソフトウェアパッケージ化 への移行

- IVI基盤を活用し、ADASおよび自動運転（AD）領域へ参入し、コックピットから運転領域までの統合ソリューションを創出



#### 事業および技術開発力の強化

- 高度化する車載ソフトウェア開発における品質・安全要件の高まりに対応するため、技術力を強化
- 主要なIVIソフトウェアコンポーネントの内製開発への投資を推進



## 成長戦略

### 2. DynaPlanet 3D空間プラットフォームの拡大と収益化

 **DynamicShareMap** は、位置情報に基づくマルチメディアコンテンツを集約・キュレーション・収益化するコンシューマー向けデジタルプラットフォーム  
現在、Microsoft StoreおよびGoogle Playストアにて提供中。

- 位置情報ベースのデジタルアセットのコンシューマー向けマーケットプレイスを実現、OEMに依存しない収益源の多様化に貢献
- 収集した画像データ（ドラレコ等）を集約・変換することで、スケーラブルなデジタルマッピングプラットフォームおよび動的な3Dストリートマップを構築
- 取引手数料および第三者向けライセンスフィーにより収益化
- Vizzion Enterprises, Inc.との提携（日本国外30カ国以上におけるカメラデータ提供）も活用

#### 戦略的取り組み

01

デジタルマッピング事業をリカーリング収益モデルへ転換

02

新規市場および海外市場においてDynaPlanetのB2BおよびB2Gビジネス機会の獲得を推進

03

DynaPlanet向けの空間情報の収集を通じ、社内のデータ取得能力を強化



**瀬川 琢磨**  
CFO



# ミックウェアの概要：最近の主なマイルストーン

2026年  
6月

当社の新規株式公開（IPO）を記念し、**Nasdaqのベルセレモニー**（クロージングベル）に参加

2026年  
5月

**Nasdaq Global Market**に上場し、**22.8百万米ドル**のIPO調達総額を確保

本田技研工業株式会社より「**2026優良感謝賞（開発部門）**」を受賞

IPOにおいて引受証券会社が**オーバーアロットメント・オプションを全額**行使し、**3.4百万米ドル**を追加調達、  
調達総額は**26.2百万米ドル**に拡大

2026年  
3月

**Dynamic Share Map**をローンチ。位置情報に基づくマルチメディアコンテンツを集約・キュレーション・収益化する  
コンシューマー向けデジタルプラットフォーム

2025年  
12月

**グローバル展開**をさらに拡大し、**ニューヨークオフィス**を開設



ホンダより表彰



Nasdaqへの上場



ベルセレモニーでの記念イベント

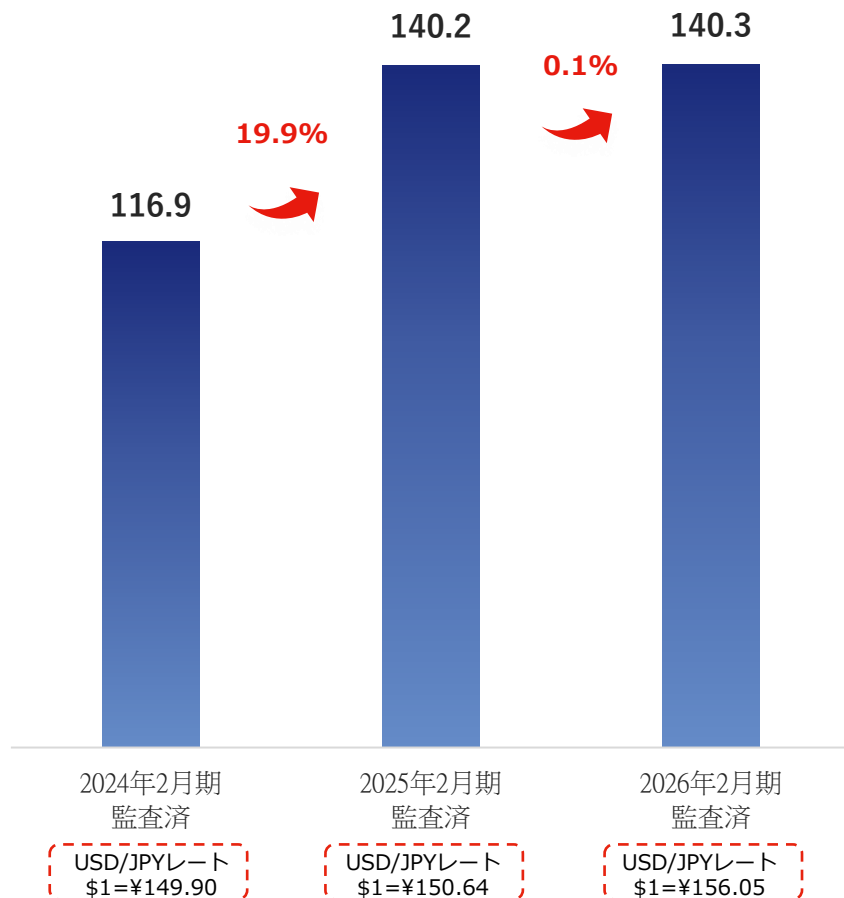


Dynamic Share Map

# 2026年2月期ハイライト

## 売上高

百万米ドル



注：2024年2月期は2024年2月29日に終了した会計年度、2025年2月期は2025年2月28日に終了した会計年度、2026年2月期は2026年2月28日に終了した会計年度を指します。  
すべての米ドル換算額は、各貸借対照表日時点の為替レート、またはそれが利用できない場合は、米国連邦準備制度理事会（FRB）が報告した当該日以前の直近の為替レートに基づいて算出されています。

## 2026年2月期主なドライバー

### 売上高は円ベースで前年同期比+3.7%増



#### ソフトウェア開発サービス | 円ベース +2.0%

増収の主な要因は、SDV領域における後継車種の開発プロジェクトへの移行に加え、LBS領域におけるコネクテッドモビリティサービスの拡大及び次世代開発プロジェクトの進展によるもの。一方、完了済みまたは開発後期段階のプロジェクトにおける売上減少が一部相殺要因。



#### ライセンス | 円ベース +1.7%

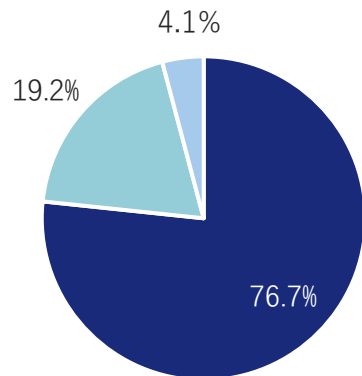
増収の主な要因は、LBS事業の成長によるものであり、複数のOEM最終顧客からのライセンス収益の増加、既存顧客における新規車種の立ち上げ、および新規顧客の獲得が寄与。一方で、旧型OEM車種に係るライセンス収益の減少が一部相殺要因。



#### ソフトウェア関連サービス | 円ベース +49.5%

増収の主な要因は、事業譲渡により取得した事業からの収益寄与および非OEM顧客向けのスポット開発案件によるものであり、既存顧客向け技術サポートサービスの完了に伴う収益減少が一部相殺要因。

## 売上高の内訳<sup>1</sup>

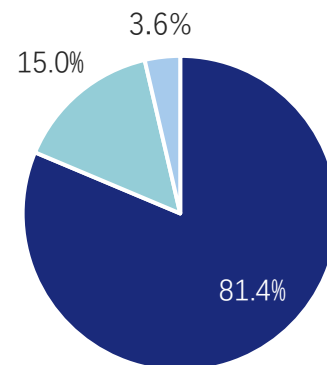


2024年2月期 監査済

USD/JPYレート  
\$1=¥149.90

### ■ ソフトウェア開発サービス

当社独自のIVIプラットフォームを基盤としたカスタム車載ソフトウェアの設計・開発および提供

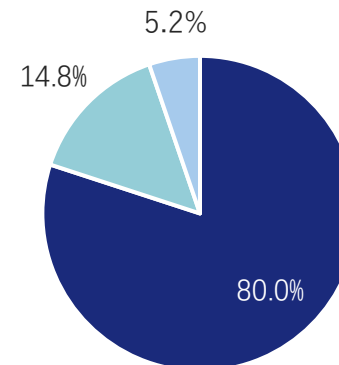


2025年2月期 監査済

USD/JPYレート  
\$1=¥150.64

### ■ ライセンス

Tier1サプライヤー向け、車載システムへの組み込みを目的とした独自ソフトウェアモジュールのライセンス提供（通常はユニット単位）



2026年2月期 監査済

USD/JPYレート  
\$1=¥156.05

### ■ ソフトウェア関連サービス

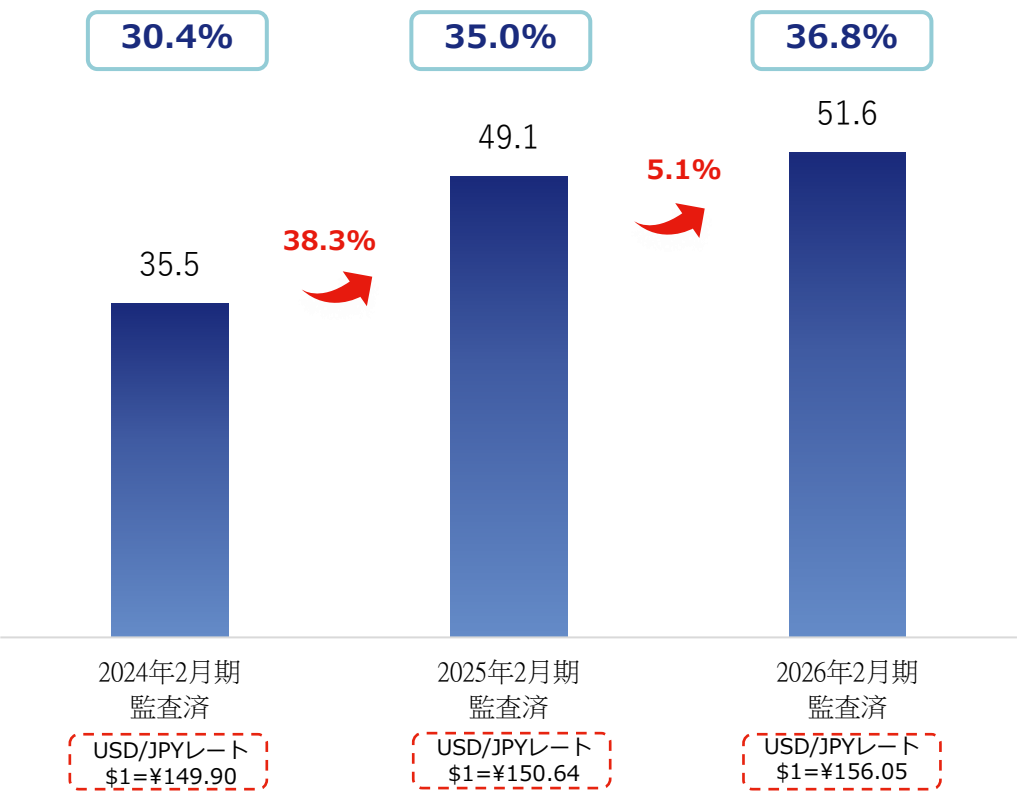
アフターサービスとしての保守・サポートサービス、および車載ナビゲーションに関連しないB2C向けモバイルアプリサービス

注：2024年2月期は2024年2月29日に終了した会計年度、2025年2月期は2025年2月28日に終了した会計年度、2026年2月期は2026年2月28日に終了した会計年度を指します。  
(1) 売上高の内訳は、日本円建ての売上高に基づいて算出されています。

## 売上総利益

百万米ドル

売上総利益率 (%)



## 2026年2月期主なドライバー

売上総利益は円ベースで前年同期比+8.9%増



### 売上総利益のトレンド

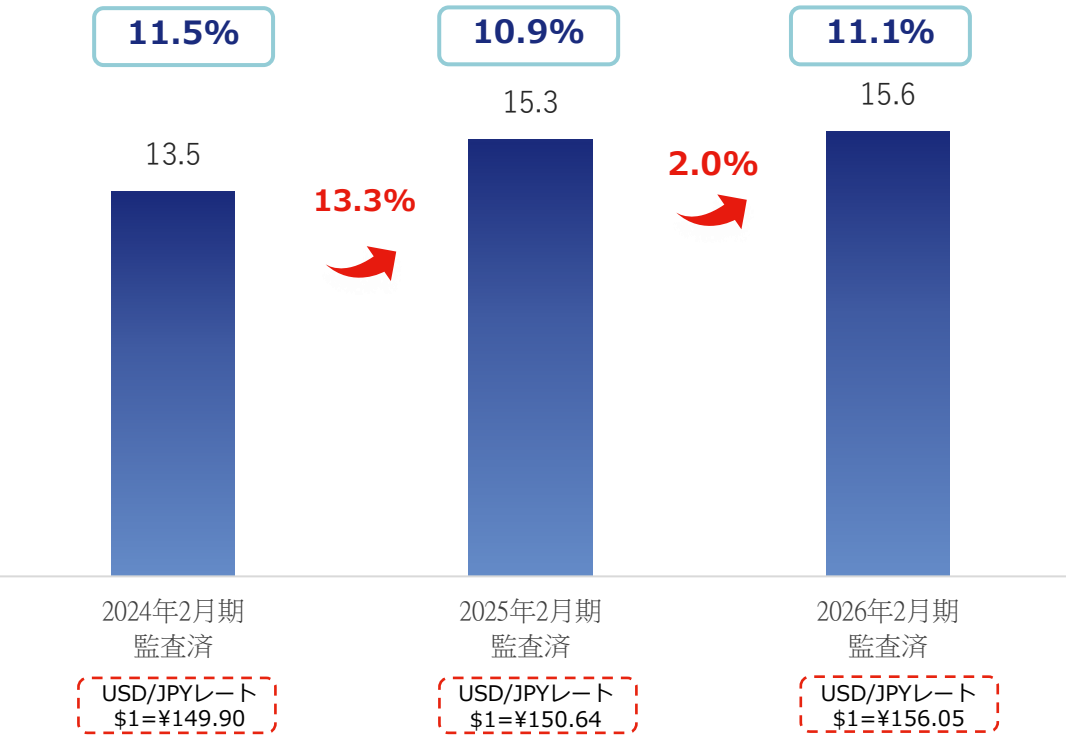
売上総利益率は、2025年2月期の**35.0%**から2026年2月期には**36.8%**へ拡大。これは、売上原価の増加率を売上高の増加率よりも抑制できたことによるもの。特に、関連当事者向けプロジェクトにおいて、設計・開発などの付加価値の高い上流工程の構成比が高まったことにより、プロジェクト構成が改善し、収益性向上に寄与。

注：2024年2月期は2024年2月29日に終了した会計年度、2025年2月期は2025年2月28日に終了した会計年度、2026年2月期は2026年2月28日に終了した会計年度を指します。  
すべての米ドル換算額は、各貸借対照表日時点の為替レート、またはそれが利用できない場合は、米国連邦準備制度理事会（FRB）が報告した当該日以前の直近の為替レートに基づいて算出されています。

## 調整後営業利益<sup>1</sup>

百万米ドル

調整後営業利益率 (%)



## 2026年2月期主なドライバー

調整後営業利益は円ベースで前年同期比+5.1%増



### 調整後営業利益トレンド

調整後営業利益は、売上総利益率の改善および販管費の抑制により改善。

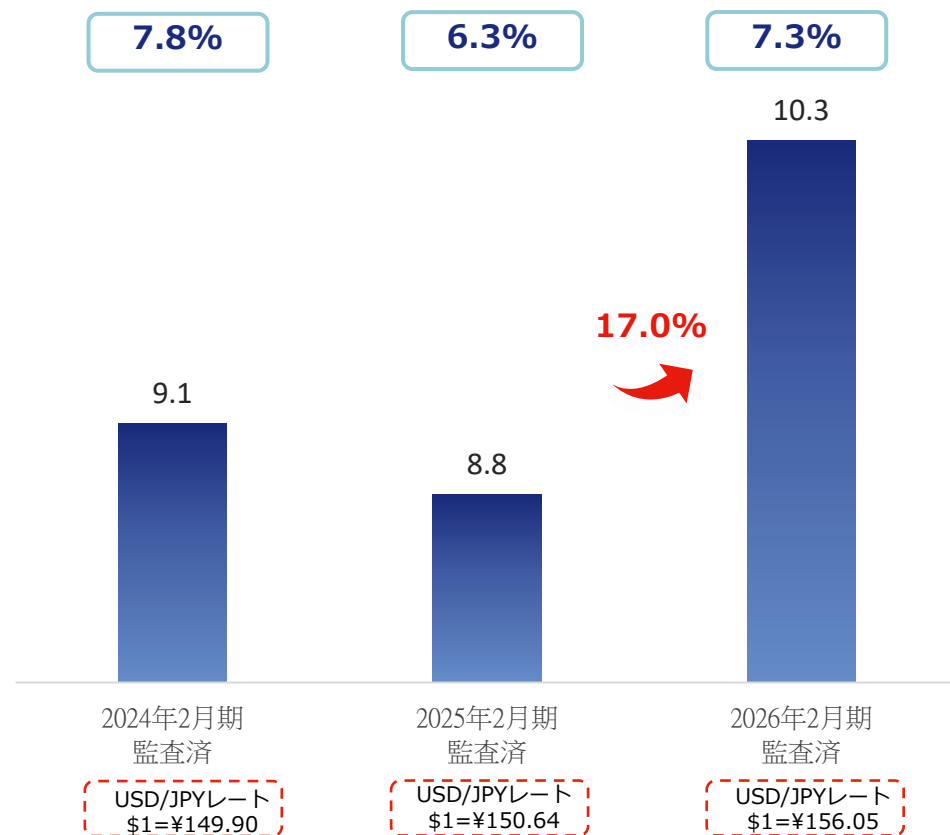
DynaPlanetを中心とした研究開発投資を積極的に実施も営業収益増加により吸収、コスト構造の改善およびプロジェクトミックスの向上も利益率を下支えし、調整後営業利益は前年比で着実に成長。

注：2024年2月期は2024年2月29日に終了した会計年度、2025年2月期は2025年2月28日に終了した会計年度、2026年2月期は2026年2月28日に終了した会計年度を指します。  
すべての米ドル換算額は、各貸借対照表日時点の為替レート、またはそれが利用できない場合は、米国連邦準備制度理事会（FRB）が報告した当該日以前の直近の為替レートに基づいて算出されています。  
(1) 当社の営業利益（米国会計基準において最も直接的に比較可能であると当社が考える指標）との調整（Reconciliation）については、Appendixをご参照ください。

## 当社の普通株主に帰属する当期純利益

百万米ドル

当期純利益率（％）



## 2026年2月期主なドライバー

当社の普通株主に帰属する当期純利益は  
円ベースで前年同期比**+20.4%増**



### 当期純利益トレンド

普通株主に帰属する当期純利益は、営業利益の増加および財務パフォーマンスの改善により増加。

売上総利益率および営業利益率の拡大が、全体の収益性向上を下支え。

また、研究開発投資および税差益を含むその他収益改善金費用の増加も一部あったが、買収関連の利益や為替が上回り増益に寄与。

注：2024年2月期は2024年2月29日に終了した会計年度、2025年2月期は2025年2月28日に終了した会計年度、2026年2月期は2026年2月28日に終了した会計年度を指します。  
すべての米ドル換算額は、各貸借対照表日時点の為替レート、またはそれが利用できない場合は、米国連邦準備制度理事会（FRB）が報告した当該日以前の直近の為替レートに基づいて算出されています。

## 主要項目

|           | 2025年2月28日現在           | 2026年2月28日現在           |
|-----------|------------------------|------------------------|
| 千米ドル      | USD/JPYレート \$1=¥150.64 | USD/JPYレート \$1=¥156.05 |
| 現金及び現金同等物 | 50,919                 | 52,930                 |
| 資産合計      | 152,501                | 156,611                |
| 負債合計      | 107,746                | 101,420                |
| 純資産合計     | 44,550                 | 52,685                 |

## 主なドライバー



### 概要

現金及び現金同等物は、営業活動による堅調なキャッシュ創出に支えられ増加。

流動性は引き続き高い水準を維持しており、継続的な投資および事業運営に対する柔軟性を確保。

有利子負債残高は、長期借入金の継続的な返済により減少。

同時に、運転資金ニーズに対応するため、短期借入枠を拡充。

総じて、当社のバランスシートは、財務安定性および資金調達の柔軟性の向上を背景に良好な状態を維持。

注：すべての米ドル換算額は、各貸借対照表日時点の為替レート、またはそれが利用できない場合は、米国連邦準備制度理事会（FRB）が報告した当該日以前の直近の為替レートに基づいて算出されています。

# キャッシュ・フロー

## キャッシュ・フロー ハイライト

|                         | 前会計年度<br>(2025年2月期)    | 当会計年度<br>(2026年2月期)    |
|-------------------------|------------------------|------------------------|
| 千米ドル                    | USD/JPYレート \$1=¥150.64 | USD/JPYレート \$1=¥156.05 |
| 営業活動による<br>キャッシュ・フロー    | 14,801                 | 13,294                 |
| 投資活動による<br>キャッシュ・フロー    | (4,203)                | (5,092)                |
| 財務活動による<br>キャッシュ・フロー    | 12,515                 | (4,783)                |
| 現金及び現金同等物に係る<br>為替変動の影響 | (4)                    | 357                    |
| 現金及び現金同等物期首残高           | 27,812                 | 49,154                 |
| 現金及び現金同等物期末残高           | 50,919                 | 52,930                 |

## 主なドライバー



### 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動キャッシュフローは**13.3百万米ドル**となり、好調な当期純利益に加え、ソフトウェア開発サービスおよびライセンス収益における顧客からの入金強化により創出。



### 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは**5.1百万米ドル**の支出となり、その主な要因は、長期的な成長を支えるための戦略的投資、設備投資、および買収によるもの。



### 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは**4.8百万米ドル**の支出となり、その主な要因は借入金の返済によるもの。

注：すべての米ドル換算額は、各貸借対照表日時点の為替レート、またはそれが利用できない場合は、米国連邦準備制度理事会（FRB）が報告した当該日以前の直近の為替レートに基づいて算出されています。



# Appendix



# 非GAAP調整：調整後営業利益

調整後営業利益は、米国一般に公正妥当と認められた会計基準（以下「GAAP」）に基づいて算出された指標ではなく（総称して「非GAAP財務指標」）、他社が開示する同様の指標と名称や算定方法が異なる場合があります、比較可能でない可能性があります。

当社は、非GAAP財務指標が当社の過去の事業運営に関する有用な情報を投資家に提供すると考えています。当社は、非GAAP財務指標を補足的な業績指標として開示しており、これはGAAPベースの業績と比較して当社の業績を評価しやすくするとともに、期ごとに変動する特定項目の影響を分離して把握することを可能にするためです。

具体的には、調整後営業利益は、上場関連費用や構造改革費用などの一時的な費用や、訴訟関連の補償金などの非経常的な収益といった、当社の中核的な事業運営を直接反映しないと当社が考える特定項目の影響を除外して業績を評価することを可能にします。また、当該非GAAP財務指標は、当社の社内において業績評価の重要な指標（KPI）としても活用されており、経営陣（執行役員を含む）のインセンティブ報酬の算定にも用いられています。

| 各会計年度末                                |                   |                   |                   |                    |
|---------------------------------------|-------------------|-------------------|-------------------|--------------------|
| 千単位                                   | 2024年2月29日<br>JPY | 2025年2月28日<br>JPY | 2026年2月28日<br>JPY | 2026年2月28日<br>US\$ |
| 営業利益                                  | 1,892,397         | 2,160,301         | 2,364,008         | 15,149             |
| 加算：上場関連費用および<br>企業変革費用 <sup>(a)</sup> | 126,165           | 149,685           | 62,934            | 403                |
| 調整後営業利益                               | 2,018,562         | 2,309,986         | 2,426,942         | 15,552             |

米ドル表示の金額はすべて、1米ドル=156.05円の為替レートに基づいています。

(a) 2024年2月29日、2025年2月28日および2026年2月28日に終了した各事業年度において、当社の上場ならびに企業変革に関連して発生した上場関連費用およびその他の企業変革費用を示しています。これらの費用は損益計算書上で費用として認識されており、純資産からの直接控除としては計上されていません。

注：すべての米ドル換算額は、各貸借対照表日時点の為替レート、またはそれが利用できない場合は、米国連邦準備制度理事会（FRB）が報告した当該日以前の直近の為替レートに基づいて算出されています。

ミックウェアは2003年に設立された日本に拠点を置く自動車ソフトウェア開発企業  
車載インフォテインメント（IVI）システム、ナビゲーションソフトウェア、およびモビリティソリューションを中心に、OEM向けにサービスを提供。

**20年+**

自動車業界におけるソフトウェア開発の経験<sup>1</sup>

## 製品・サービス

- 車載プラットフォームソフトウェア
- ナビゲーションソフトウェア
- その他モビリティ関連ソフトウェアB2Cサービス

## 主要顧客

- **トヨタ自動車株式会社**は、ミックウェアの発行済株式の**10%以上**を保有。
- **本田技研工業株式会社**は、ミックウェアの発行済株式の**10%以上**を保有。
- その他の顧客には、ダイハツ工業株式会社（ダイハツ）および株式会社デンソーを含む。

**300件+** 特許<sup>2</sup>      **約600名** 従業員<sup>2</sup>

注：

(1) 2026年4月27日時点

(2) 2026年6月11日時点の従業員数（概数）

## グローバル展開

日本国内に**6**つの事業会社および**13**の開発拠点を有し、米国、タイ、ドイツに海外子会社を展開



## 株式会社ミックウェア

メールアドレス: [mic\\_ir@micware.co.jp](mailto:mic_ir@micware.co.jp)

所在地:

〒650-0035

兵庫県神戸市中央区浪花町59

神戸朝日ビルディング 25F

IRサイト: [www.ir-micware.com/ja](http://www.ir-micware.com/ja)

